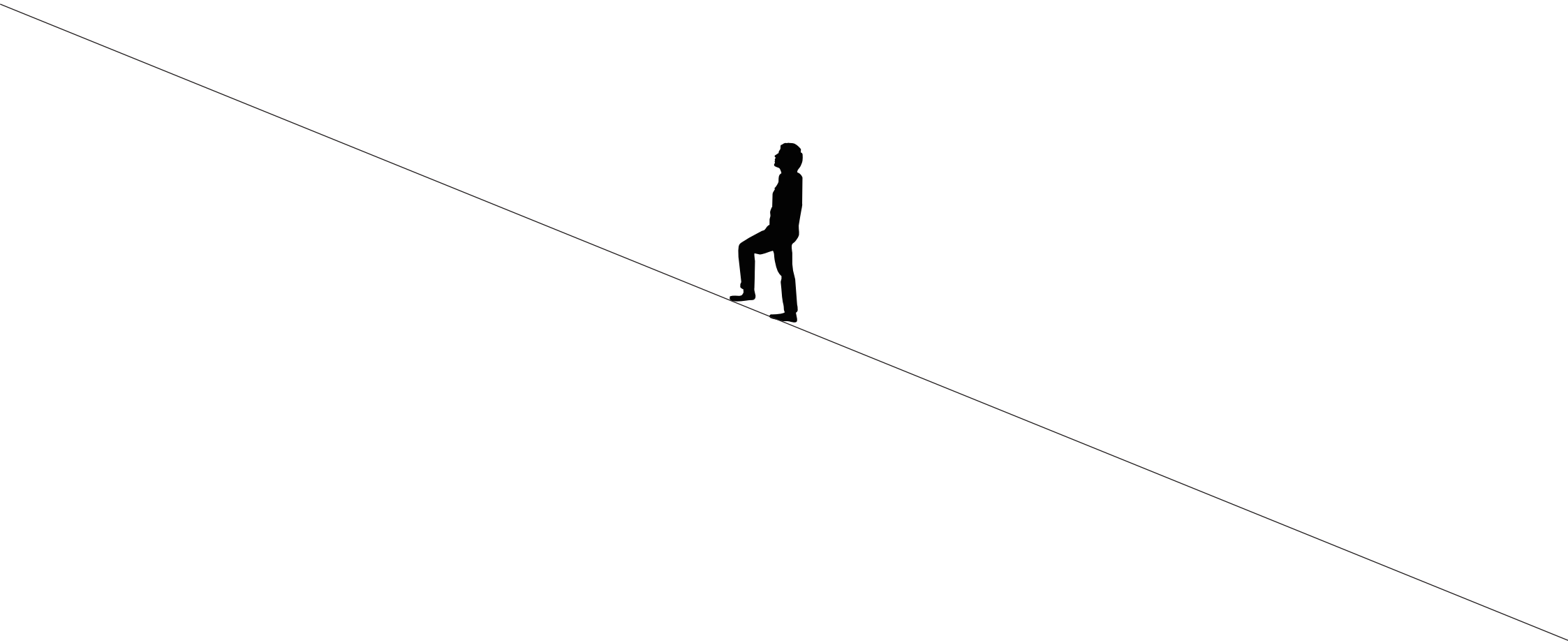
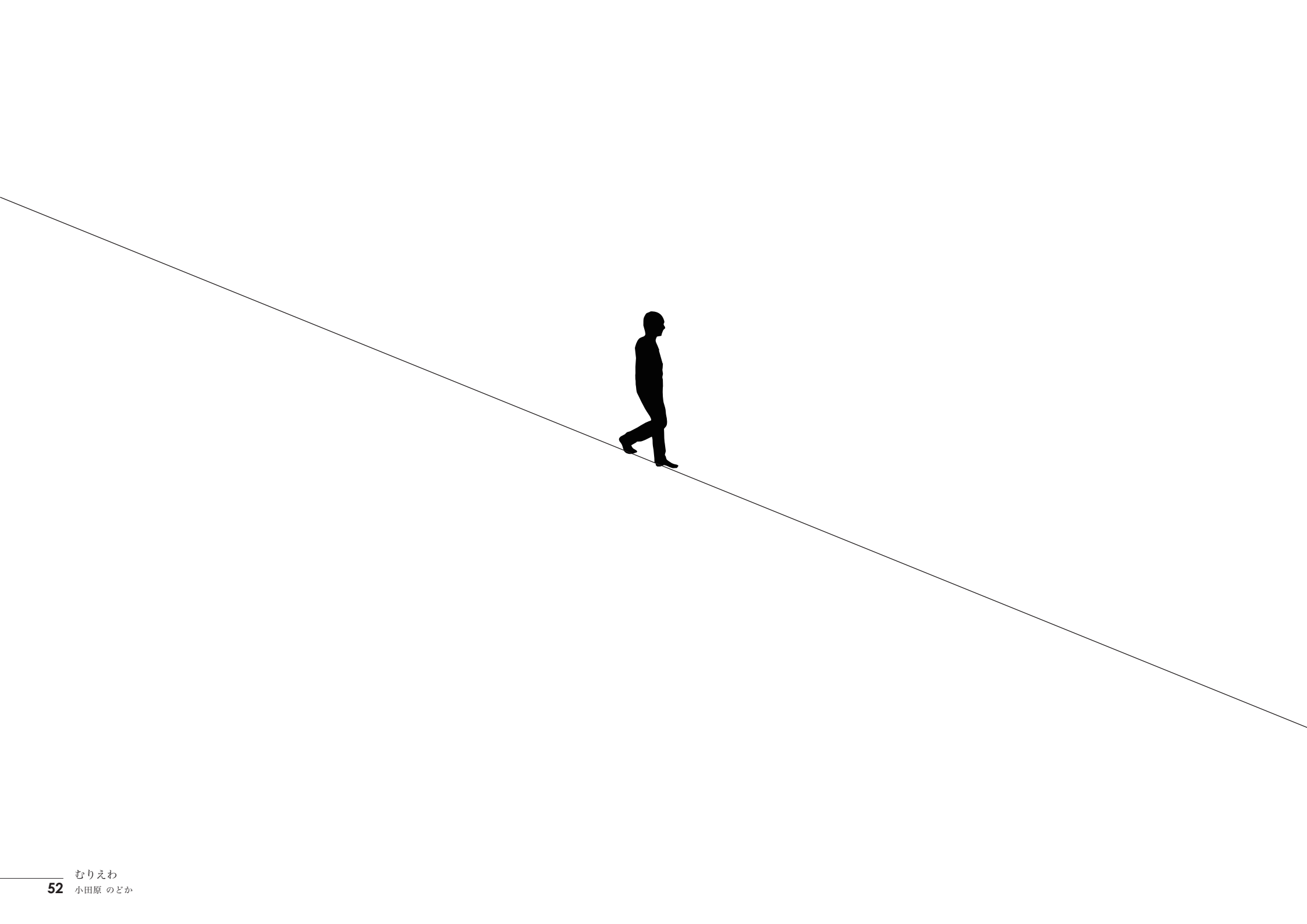


むりえわ

小田原
のどか

ヘラクレイトス 断片60 より





上り道も下り道も一つ

の同じものだ。

「むりえわ」では、西田幾多郎、ヘラクレイトス、ニコラウス・クザーヌスをとりあげる。三者にはそれぞれ「対立の一致」という思索の帰結がある。また、乱暴になることを恐れずに言えば、「存在が本質的に自己の非在を基底としてのみ成立すること」が共通している。今回とりあげたヘラクレイトス。彼の思索の概要を語る際も、「反対物の一致」あるいは「対立の一致」という言葉が用いられる。研究者は「同一」「一致」という言葉にそもそもどのような意図をヘラクレイトスはこめていたのかを論点とする。本質的一致、連続的一致、相互補完的一致、ヘラクレイトスの断片をそれらに分類し論ずることとは可能だが、筆者の望むところではない。筆者の興味は、「なぜ反対物が同一となるのか」にある。ヘラクレイトスにおいては、なぜ同一となるのかは曖昧なままである。次回むりえわでは、なぜ反対物が一致するのかについてひとつの仮定を提起してみたい。



ヘラクレイトス 断片60 より「ソクラテス以前の哲学者たち」京都大学学術出版会